

トピックス



中央区まるごとミュージアム2012

11月4日、「中央区まるごとミュージアム2012」が区内全域で開催されました。当日は区内を巡るバスや船が無料で運行され、「銀座あおぞらDEアート」や画廊巡りなどさまざまな文化イベントが行われました。秋晴れの一日、訪れた皆さんは中央区の魅力堪能していました。

中央区地域防災計画の修正にあたり ご意見を募集します

この計画修正は、東日本大震災を踏まえて都が平成二十四年四月に公表した「首都直下地震等による東京の被害想定」に基づく区の新たな被害想定に對して、その対策を示したものです。

今回、本区の防災対策の強化・推進を図るため、見直し項目などを取りまとめ、「中央区地域防災計画修正の概要(案)」を作成しました。この案について、区民の皆さんからのご意見を募集します。

意見の提出期限

12月11日(火)

閲覧場所

修正の概要(案)の内容は、区役所一階危機管理課・まごころステーション・情報公開コーナー、日本橋・月島特別出張所、または区のホームページでもご覧いただけます。

意見の提出方法

住所、氏名(団体名の場合代表者名を含む)、年齢、電話番号などの連絡先を明記して、区役所一階危機管理課に直接、郵送、ファクス、Eメールまたは区のホームページのパブリックコメント(区民意見提出手続き)からお寄せください。

修正の概要

今回の地域防災計画修正の主な項目は、次のとおりです。**新たな減災目標の設定**

- ・ 都の減災目標と連動し、平成三十二年を達成年度と定め、減災目標を設定します。
- ・ 死者を六割減少させる。
- ・ 住宅からの避難者を四割減少させる。
- ・ 建物の全壊棟数を六割減少させる。

計画修正の取り組み

減災目標を達成するため、東日本大震災の教訓や本区の実情を踏まえて防災対策の強化・推進を図っていきます。

- ・ 地域防災力の向上
- ・ 帰宅困難者対策の強化
- ・ 津波(水害)対策
- ・ 災害に強い安全なまちづくり

二十歳の記念

「新成人のつどい」

区では、二十歳を迎える皆さんの門出を記念して「新成人のつどい」を開催します。

この「新成人のつどい」は新成人を中心とする実行委員が企画・運営を行います。厳粛な式典と楽しいつどいの中で、これまでの二十一年間に感謝し、大人へのステップをともに祝ひたいと思います。恩師の方々もお招きします。

日時 平成25年1月14日(祝)

- ・ 受付 午前10時40分～
- ・ 式典 午前11時30分～
- (2時間程度)

会場 ロイヤルパークホテル(日本橋蛸殻町2-1-1)



▶ 昨年の「新成人のつどい」

・ 本区の防災対策の強化
※意見の提出(問合せ)先

〒104-8404
中央区築地1-1-1
危機管理課危機管理係
☎(3546)5087
FAX(3546)9557
メールアドレス
hosaikeikaku@city.chuo.lg.jp

対象 平成四年四月二日から平成五年四月一日までに生まれた方

内容 ①記念式典(手話通訳があります)
②新成人のつどい
懇談(立食パーティ形式)や抽選会などのアトラクション

案内状 十二月中旬に送付します(案内状に入場券を同封しますので、当日お持ちください)。
◎中央区にお住まいでも、転入手続きをしていないと「案内状」をお届けすることができません。区内にお住まいの方は早めに転入手続きをしてください。

◎対象者で「案内状」が届かない場合はご連絡ください。
◎「新成人のつどい」には、新成人以外の方は出席できません。

※問合せ先
中央区新成人のつどい実行委員会事務局(文化・生涯学習課内)
☎(3546)5305

区内の文化財

板絵着色お千世の図額附目録

区民有形文化財歴史資料
八重洲二丁目2番5号
日本橋西河原地蔵寺教会

日本橋から一石橋にかけての南側には、江戸時代から昭和初期まで西河原町(現在の八重洲一丁目2番および日本橋一丁目2番の一部)という東西に細長い町がありました。享保三年(一七一八)、この西河原町の中ほどに堂宇を建立し、天台宗の僧天海の持仏(守り本尊として身近に置いて信仰する仏像)と伝わる地藏菩薩を安置したのが日本橋西河原地蔵寺教会の始まりです。本尊の地藏菩薩は、目を限つて至心に祈願すると霊験あらたかであることから、日限地藏と称され、寿命を延ばし、福利を授ける延命の祈願寺として古くから信仰を集めてきました。

さて、今回の文化財は、昭和初期に当寺へ奉納された「お千世の図額」について紹介



▶ 板絵着色お千世の図額

します。この図額は、日本橋区本町生まれの新派俳優花柳章太郎(一八九四～一九六五)が、昭和十三年(一九三八)に西河原地蔵堂(昭和二十五年から「日本橋西河原地蔵寺教会」へ奉納したものです。縦七二・五センチメートル・横四七・二センチメートルの桐板で、額面向つて右上に「奉納」の墨書、中央には清新な色彩による立姿の半玉(見習い中の年少芸妓)、向つて左下端に扇の一部が描かれています。

また、額面向つて右下には、花柳章太郎が詠んだ句「桃割に結びてもらひし春日かな」の墨書と朱印、向つて左下には、小説家・泉鏡花(一八七三～一九三九)が詠んだ句「初蝶のまひまひ拝す御堂かな」の墨書と朱印がみられるほか、本図を描いた日本画家・小村雪岱(一八八七～一九四〇)の朱印なども確認できます。

当図額が西河原地蔵堂へ奉納された経緯については、次のような逸話が伝えられています。大正四年(一九一五)三月、本郷春木町(現在の文京区本郷三丁目)の本郷座(新派劇や革新歌舞伎の劇場)で上演予定であった「日本橋」(大正三年に発表された泉鏡花の小説「日本橋」を脚色・劇化)の配役にあたり、

当時まだ駆け出した花柳章太郎は、演目とゆかり深い西河原地蔵堂へ祈願に訪れたといえます。

そして昭和十三年(一九三八)三月、二回目のお千世役である明治座での「日本橋」上演の折、花柳は小説「日本橋」(千草館刊行)の装幀を手掛けた小村雪岱に、自身が演じたお千世の描画を依頼し、原作者の泉鏡花と自身の自筆と思われる句を額額に書き添え、西河原地蔵堂へ報謝のために奉納しました。なお、同寺には、花柳が持参した図額の内容も現存しており、記載内容から奉納の経緯を知ることが

できます。

明治期に繁栄した日本橋花街現在の八重洲一丁目・日本橋二丁目・日本橋三丁目にあたる「檜物町」「数寄屋町」「元大工町」「上槇町」などの町々を舞台とする「日本橋」には、春の朧夜の「石橋」や縁結びの西河原地蔵尊など、本区に関係の深い場所がストリーリーの中心をなしています。花柳界に生きる対照的な性格の二人の日本橋芸者(稲葉家のお孝・瀧の家の清葉)と若い医学士の葛木晋三、そして稲葉家の可憐な雛妓(半玉)お千世がからむ波瀾に満ちた恋物語が、区内を舞台に展開されていきます。

新派の名狂言「日本橋」にゆかりある人々によつて制作・奉納された当図額は、日本の演劇史のみならず地域史的な資料としても貴重な文化財といえます。

その後、切望

中央区主任文化財調査指導員 増山一成

中央区主任文化財調査指導員 増山一成